

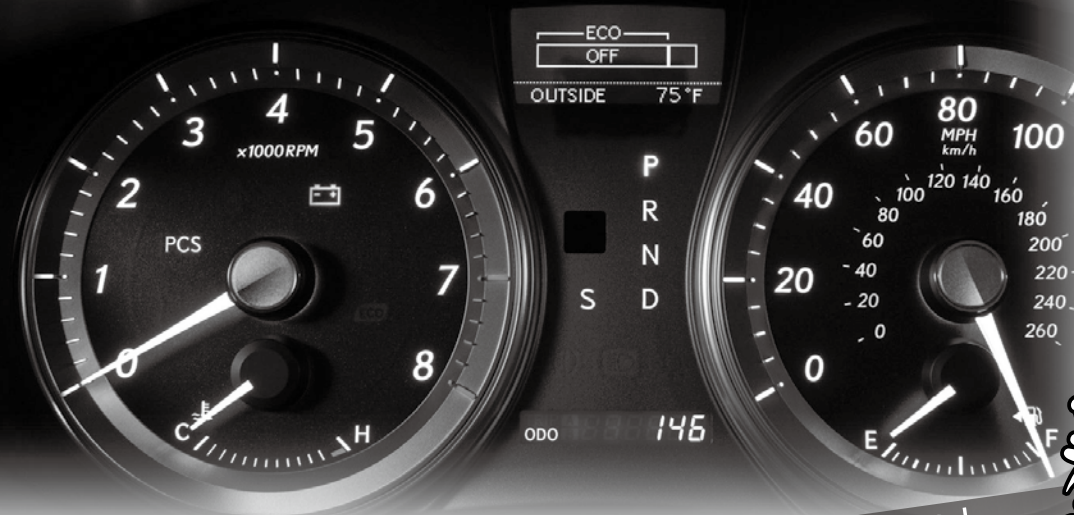
検証

ジンドーシヤ

現代

デイトールから
真実を読む！

クルマの暴走を考えると



「そのニュースは、対岸の火事か!？」

日本には「火のないところに煙は立たない」という諺がある。その諺がすべての事象に当てはまるとするならば、アメリカで大きく騒がれているトヨタの暴走問題はどこかに火が出る理由があったはずだ。しかし、現在のところ出火原因(暴走の原因)は解明されていない。それでいて煙だけが大きくなっている状態といえるだろう。ここでは、そんなアメリカでの暴走問題に関して整理したうえで、ユーザーサイドとしてできる対応策について考えてみたい。

アメリカ・テネシー州に住んでいるロンダ・スミスさんは、2006年10月にこんな体験をした。
高速道路で突然、愛車のレクサスES350(日本未発売)が意図しない加速を開始。時速70マイル(約113km/h)から100マイル(約161km/h)まで急加速し、必死でブレーキを踏んだが速度が落ちない。あわててギヤをRに入れても、クルマは反応することがなかった。死を覚悟して夫に(ハンズフリーを使い)電話をかけたら、「神の力」が介在しES350は少しずつ減速。なんとか最悪の状況を免れたという。
クルマが暴走する直前にクルーズコントロールのスイッチが点滅したこともあり、スミスさんはクルマの制御系にトラブルがあったと判断。欠陥車両としてトヨタに返金を求めたが「車両には問題がな



渦中のレクサスES350。実際にそこで何が起きたのかはまだ明らかになっていないが、海の向こうで、著しいレッテルを貼られたのは事実だ。

い」と訴えを却下された。
その後「訴えてやる!」と鼻息荒くNHATSA(アメリカ運輸省道路交通安全局)に相談したが、クルマに異常があったという判断は下されず怒りは頂点に達した。
「強欲トヨタよ、職務を果たさなかったNHATSAよ、恥を知れ!」
2月23日にアメリカ下院の公聴会でヒステリック気味に証言したロンダ・スミスさんは、涙を拭いながらそう言い放った。
以上が、アメリカで大騒ぎになっているトヨタ車暴走問題を象徴する出来事だ。

問題の焦点は電子制御の誤作動か否か

アメリカのロサンゼルスタイムズ紙によると、2001年から2009年10月までにレクサスの暴走事故は1000件以上報告され、そのうち死者数は19人にのぼるといふ。
問題の焦点は「電子制御プログラムが誤作動を起こすのか否か」である。ロンダ・ス